

あれから 314 年

中央義士会報

創立明治 41 年

平成 30 年 12 月発行 No70

安定期
事件期
影響期
近代期

年譜忠臣蔵

江戸時代から現代までの出来事を一冊にまとめました。新発見の事項やこれまでの最新の研究成果を反映した今まで作られたことのない年譜です。

忠臣蔵の歴史を知るには最適、かつ、座右の一冊としてお手許で参考書としてご利用下さい。

[申し込み]

500 部限定です。

1 冊 1500 円 + 送料 300 円

10 冊以上の場合

1 冊 1200 円 送料無料

お申し込みは下記口座へ。

中央義士会

00250-9-139100

目次	
・年譜忠臣蔵	1
・泉岳寺浅野家墓石調査	2
・烈士 幸田與左衛門正愛	5
・予が邸内の義士舊蹟	7
・特別企画	9
進藤務	
・富岡 克	1
・三次浅野家のお姫様のお墓	10
・十字架の塔と浅野内匠頭上屋敷跡地	11
・第十六回忠臣蔵博士試験問題	12
・自由広告	15
・業務報告・編集後記	16
・中島康夫	10
・進藤務	11
・中島康夫	10



「泉岳寺浅野家墓石調査」

副理事長 富岡 克

平成三十年六月十五日、泉岳寺の無縁仏の墓石から浅野家の墓石が見つかったとの連絡を受け、小雨の中を荻原常務理事と共に調査にうかがいました。

この調査は、六月八日に、泉岳寺小坂住職様の命を受けた賢明様から、山内の墓地を整備する中で、無縁仏として集められていた中に浅野家に関すると思われる墓石が見つかったとの連絡があり、おうかがいしたものです。

賢明様のご案内で、整然と安置されている百基近い墓石の内、浅野家の家紋の鷹羽を参考に調査を行いました。その中で、関係すると思われるものの写真を撮り、後日、中島理事長の精査も含めてご返答をすることとしました。その写真の一例を、写真1〜3に示します。

その後、泉岳寺からお借りした資料（過去帳）と中央義士会の資料とを比べ、見つかった墓石の戒名と葬られていた人物名との比較を行いました。それを図1に示します。

過去帳に「浅野内匠頭局」と記載のある墓石は、他より立派で、その他はほぼ同程度の大きさです。

これらの浅野家の墓石は、赤穂浅野家二代目の浅野長直と孫の長恒が祀られている墓所に隣接する場所に墓域を設け、そこに祀る計画もある旨、泉岳寺よりおうかがいしました。

(写真 荻原)



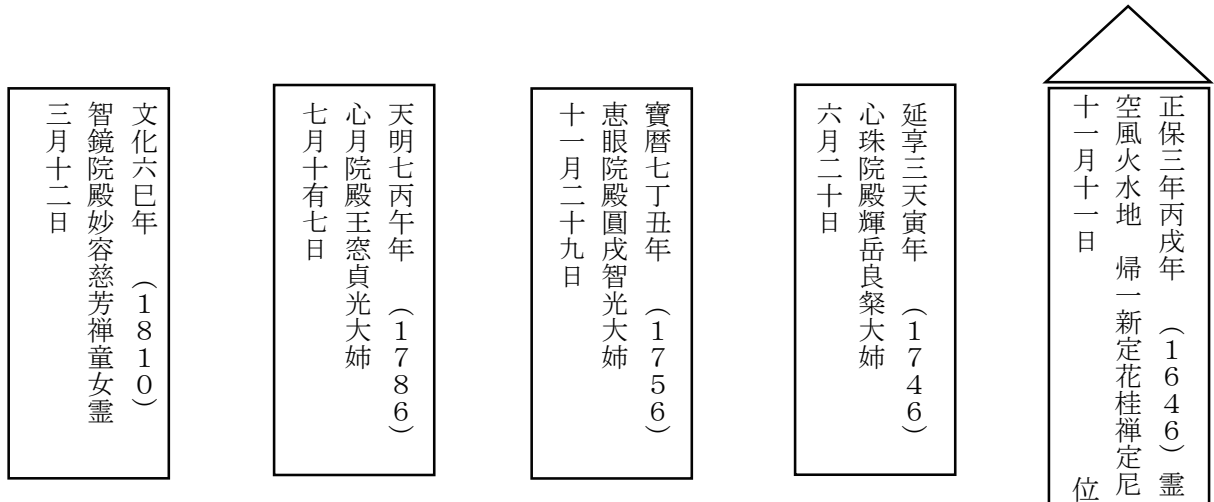
写真-1 墓石全体



写真-2 浅野内匠頭局



写真-3 浅野大学殿奥方



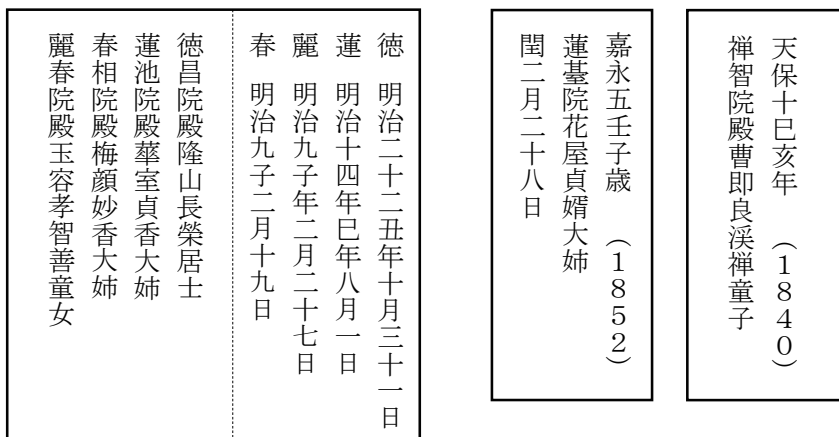
(浅野久次郎姉女)

(浅野大学頭殿 姉曲洵氏之嫁)

(浅野大学殿御姉)

(浅野大学殿奥方)

(浅野内匠頭局)



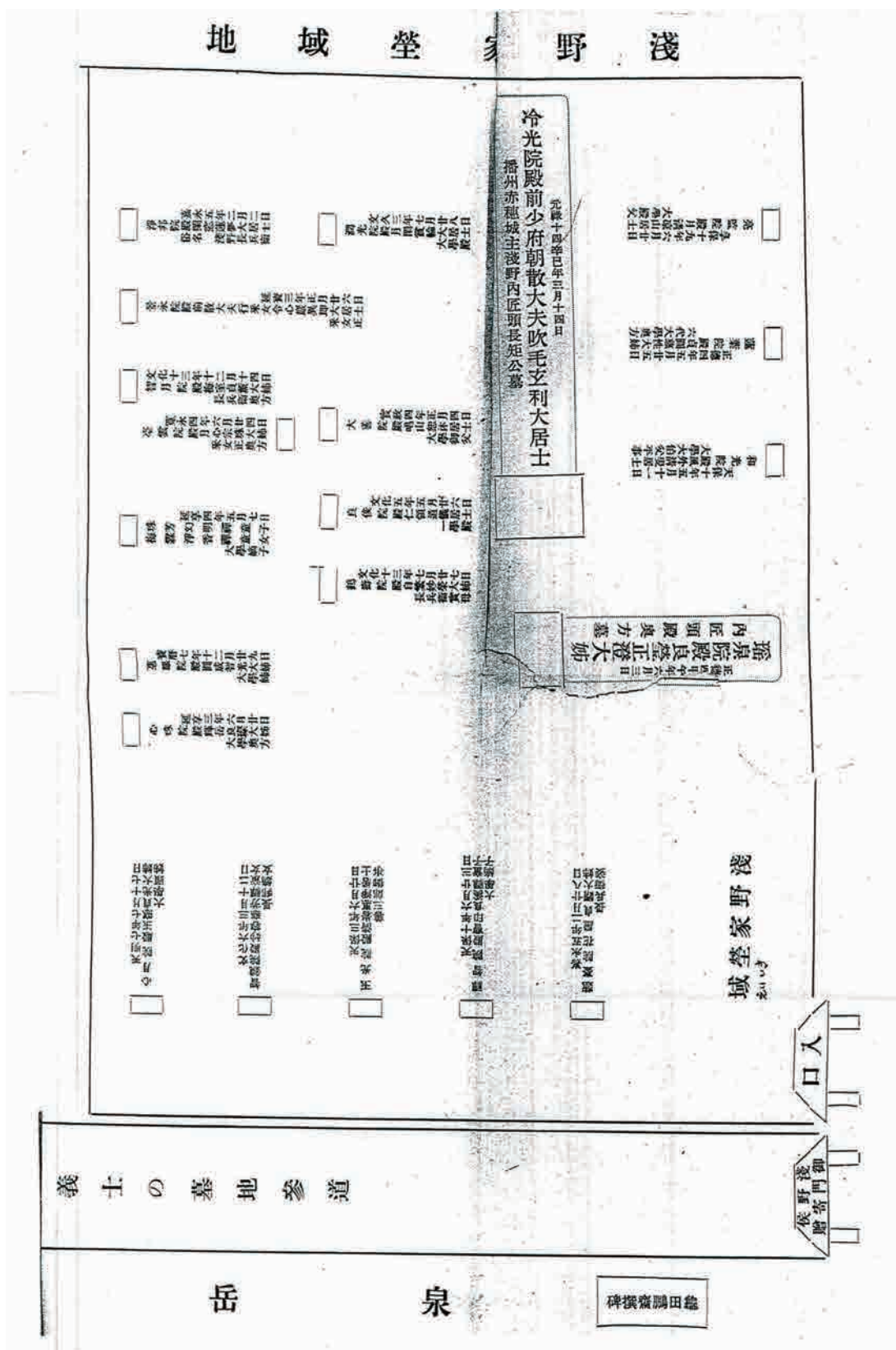
正面

右側面

(浅野大学殿御嫡子)

図一 1 泉岳寺浅野家墓石

□で囲まれている範囲が一つの墓石。()内は過去帳に記載のあるもの。□内の西暦は参考に入れたもの。



過去にあった泉岳寺の浅野家墓地図

烈士 幸田與三左衛門正愛

評議員 宇都宮 七五

本年三月二十日、我が中央義士會は、芝高輪泉岳寺に於て、赤穂義士自刃二百四十回忌の法會を營み、且又、其の記念講演會を開催したのである。當日は、山本海軍大将、加藤咄堂先生、四王天陸軍中将の講演の後を承け私も、井筒主事の突然たる指名により、所感を述べることとなり、何の用意もなく出席したるがまゝ、記憶を辿り、世に隠れたる烈士・幸田與三左衛門正愛に就き其の概要を申述べ、而かも元禄の義擧は、鬪藩一致の壯擧であり、又、青壯年一團の快擧であつたと云ふ事を申述べて其の責を塞ぎたのである。而かも、其の速記は、本誌第一百八十八號（昭和十七年七月十四日發行）に「一億一心火の玉だ」の題下に掲載せられてある。

然るに、其の述ぶるところは簡單であり、且つ意を盡さぬのであるから、當日私は壇上より他日の機會を得て委しく之を申述ぶることを約束したのである。是に於てか、讀者の方々より、種々の問合せがあり、且又、質疑もあり、更らに其の發表を督促せらるゝもの頗る頻頻たりである。依て、今、之を記述して、前約を履踐し、以て、應答に代へたいと思ふ。

先ず以て、私は、幸田與三左衛門正愛が、義士討入の翌々日たる元禄十五年十二月十七日、江戸に於て一通の遺書を殘して、事も美事の壯烈なる最後を為したりし、其の遺書を掲げ、次で、私の其の遺書を手發見したりし顛末を陳べて、同人が赤穂淺野家に於ける身分地位、并に其の人柄に及び、終りに其甥と稱せる赤埴源藏重賢との關係を述べ、以て、幸田與三左衛門正愛の忠烈を偲ひたいと思ふ。

義に勇みたる大石内蔵助以下四十六人の面々は、今日こそ故君の志を繼ぎて、怨敵吉良の頭上に一撃を加ふべく、勇躍、本所の彼れか邸を襲撃したるは、正に元禄十五年十二月十五日の未明である。而して、目出度その目的を達したる同志は泉岳寺に引揚げ、其の首級を、淺野内匠頭長矩の墓前に供奠し、後ち仙石伯耆守の邸より夫れ々、四家へお預けとなり、其の處分を待ちたることは、人々皆な普く知るところの事柄である。

茲に、赤埴源藏重賢は、大石内蔵助以下十七人と共に細川越中守綱利の邸に幽囚背らるゝや、其の日直ちに一書を裁して、之を幸田與三左衛門正愛に贈りたるもの即ち次の如くである。

能々啓上候、然者、昨夜首尾克本望相遂候、

我等事年来の存詰も最早相絶候、定而御満足可有之事候、御病氣の程甚だ心掛候、御本腹偏に奉祈候、此上は我々後の事、何分宜様に頼上候、急、右迄可得貴意候、謹言
十二月十六日
赤埴源藏重賢（花押）

幸田與三左衛門様

右の書翰は、源藏が倉皇筆を執りて、病中の與三左衛門に對し、昨夜首尾よく其の本望を遂げたることを通報して、其の喜びを共にすると共に、後事を託したるの書である。

病臥中の與三左衛門は、右の吉報を得て欣喜措くところを知らず、而かも其の己れ病の爲めに是等同志と共に其の行動を同うすることを得さりしを慨き、義の爲自己の立場を明らかにし、武士道の爲めに其の身を殺し、同志の後を追ふて、其の本分を全ふせんが爲、一通の遺書を認め、梅澤勇に贈り、潔く壯烈なる自刃と共に、其の後事を託したるものが、即ち次の一書である。

我等事浪々の身となりてより、主の仇吉良殿を討取らんことを目論見、永々御身の世話を相成候得共、昨夜本所に於て、主の仇を討取本望遂げ候趣、甥赤垣重賢より知らせ有之候得は、我身病氣にて、其黨に入らざるは、殘念なから、最早、此外に思ひ殘す

事は無之候間、只今最期におもひ候、倅隼之輔養育の義御身に任せ候へば、宜敷頼み申候

元禄十五年壬午十二月十七日

幸田與三左衛門源正愛（花押）

行年三十九歳

梅 澤 勇 殿

重くともかたはかへぬそ

義の重荷

右二通の書翰は、私が友人土岐薫君より示されたるもの、夫れである。土岐君より示されたる右爾通の書翰は摹寫のものではあつたが、其の紙質相当年代を歴たものであり、且又、源蔵が得意とせる鳥飼流の筆法も、自ら其の紙面に横溢しあるを見たのである。されば此の爾通の書翰の眞蹟は、ドコかに秘蔵せられあるを想像すると共に、右爾通の書翰の存在を否むことは出来ぬと思ふ。依て、私は前叙の如く、泉岳寺に於ける壇上に於て記憶のまゝに、其の辭世と共に其の大意とを申述べておいたのである。

然れば、幸田與三左衛門正愛とは、如何なる人物なるか、先つ以て之を検討するの必要がある。私は赤穂淺野家分限帳を十数種所蔵

しているが、それによれば禄高は二百石であり、職分は在々奉行であり、而かも加東郡に勤めて居たものたるのが分るのである。而かも與三左衛門は、殿中刃傷の當時は、其の年齢三十八歳の若さ盛であり、而かも相當の思慮分別ありたるの侍たることは、赤穂開城——引渡以後、大石内蔵助以下の人々と共に、尚は命を承けて留り、残務を整理したる中の一人たりし事によりても、之を知ることが出来るのである。

前掲、與三左衛門の遺書によりて之を見るときは、與三左衛門が同志復讐の目的を達したることを知りたるは、其の甥赤埴重賢よりの知らせによりて、之を知りたと云ふのである。然るに源蔵より幕府に呈出したりし親類書には、其の伯（叔）父は、
父方の伯父 赤埴 小右衛門
同 赤埴 所左衛門
母方伯父 高野 春 東
の三人を掲げあるに止まり、幸田與三左衛門なる伯（叔）父のありしことを記して居らない。

然らば幸田與三左衛門が遺書に、甥源蔵とあるは錯誤であらうか、疑問は此の邊より起り、右遺書に就ても亦これを否定すべきであらうとの問題さへも起るのである。元來赤埴源蔵家は、江戸に深き関係を有して居るの

であつて、其の父の一閑も、赤穂事變後は浪人して江戸に居住し、母も亦同様である。夫れと申すも母は、幕臣高野忠左衛門の娘であり、忠左衛門は元佐渡相川の地役人を勤めたるの人である。此の忠左衛門の妻は源蔵自刃の當時は、總州に居住し居る等の關係によることであらうと思はるゝ。

申す迄もなく、源蔵の伯（叔）父と云へば、其の父、又は母の兄弟でなくてはならぬのであるが、若し母の姉妹が他に嫁ぎて其の夫たる人のありとすれば、夫れは義伯（叔）父として、源蔵は其人々より甥と稱呼せらるゝこととなるのであるから、幸田・赤埴の關係も亦、親類書には載せあらざる夫等でありはしまいかとも思はるゝのである。切に此の點、讀者の御示教を乞うところのものである。

序なから、茲に見逃せ出来ないものは、源蔵の母は後年日詠と稱し、其の若き頃は婦人ながらも常に乗馬して市中を往來せしと云ふの凛々しき傑物であるから、其の夫與三左衛門も亦義に勇み勇に富み、其の病を以て同盟に加はり能ざるも、武士の面目に掛けて、壮烈なる最後を遂ぐるに至りたるものではあるまいかとも思はるゝのである。時は一億一心を要求し火の玉となつて我等大東亜建設の途上にあるの折柄、赤穂淺野家が義士以外、如斯の闔藩一致の多くの人々のありたることを

探求して、之を世に紹介し、併せて赤穂の藩風が英傑四十六士を生み出したる、蔭に潜める歴代、素行學の研鑽實行、其の結果を結ひたるものたるに想到し、幸田與三左衛門正愛が高潔純眞にして雄爽純忠なるの士たりしを讃仰して、此の稿を終ることとする。

〔昭和十七年八月廿二日所稿〕

予が邸内の義士舊蹟

法學博士 増島 六一郎

僕が今の屋敷を買ひ入れる時は、誰の屋敷跡だとも知らず、たゞ何所かの大名の屋敷跡だに思つて居た。それも維新時分に色々切り賣りしたらしく、僕の買ったのは池の在る周圍をかけて其の重なる部分であつた。それから暫らく過ぎてから、杉浦天台君が、あの屋敷は元と長府侯の屋敷跡であつて、其所は例の赤穂義士の中、岡島八十右衛門、吉田澤右衛門、竹林唯七、倉橋傳助、村松喜兵衛、杉野十平次、前原爲助、勝田新左衛門、間新六、小野寺幸右衛門の十人が御預けになり、切腹を賜まはつた遺跡地であると聞かされて、さうか其れは豪い所だ、幸にして僕の手に入つたのは實に意外の幸福であると喜んだ次第である。其後杉浦君も病氣に罹り僕も俗用に

忙殺されて、ゆっくり會談する機會もなかつたが去年（四十二年）の五月五日に、久し振りに杉浦君を尋ねて快談し、我國の士道元氣の日に月に衰頹して行くのは、痛心至極の事である。是非何等か此の弊害を矯正する方法を講ぜねばならぬと云ふ事より、赤穂の義士などは我國の寶であるから其行動事蹟等は萬世士道の模範として傳へねばならぬ、幸ひ僕の屋敷が其の一部であるとすれば、何か碑文でも建て、永久に保存し人、心鼓舞の一助に資し度いものであると相談して、其の撰文を杉浦君に依頼すると云ふ事にしたのである。

一體我が國の士氣、人心は、維新以來漸次墮落しつゝあると思ふが、僕は特に此の日露戦後より、恐しき勢を以て墮落の惡風を助長しつゝあると感ずる。今日となつては何事も金錢萬能主義で、其の前には廉恥もなく、徳義もなく、あらゆる犯罪を構成しても顧みない。延いて國家の後繼者なる青年の意氣は大に衰へ、操行大に亂れて、殆んど唾棄するにも堪へないと云ふ有様である。若し果して此の勢を以て進んだならば、我國の前途は誠に憂ふべきものであると考へる。その此所に至りし原因に就て探求したならば、各種の缺陷を發見するであらうが、教育制度の不完全な事も興つて力ある事と信ずる。今日の學校と云ふものは、學校でなくつて製造所である。小さいコセゝした物を拵へる所だから、マ

ツチ製造所位のところだらう、到底人間を仕上げる所とは云はれない。普通のマツチなら薬が入つて居るから、摺れば火が出るが今の學校の青年は精神を抜いてあるから、火の出る所ぢやない煙も出ない、丸るでフヌケのマツチだ、軸木ばかりのデクの棒だ、さう云ふ者ばかり澤山拵へて一體何になるか、軸木のマツチをいくら摺り付けても、國家の元氣が炎々と燃え出して世界に輝くと云ふやうな事が望まれる譯のものではない。

杉浦君と僕とは、開成學校に一緒に居り、書生としては粗暴に近い方であつたらうが、苟くも士として恥づべき行は決してやらなかつた。従つて其の當時生徒中の牛耳を握つて居り、不品行な奴や、敗徳な奴などは譴斥其他の方法を以て充分なる懲戒を加え、相勵まして士風の振興を圖つたものである。今の書生に到底そんな元氣は望まれぬのは固より、唯だ徒らに分々な衣服などを着け、分々な小遣錢を貰つて、書生にあるまじき行ひをなして恥ぢぬのである。維新の大業を就してより四十年、其の當時の志士豪傑の元氣行動は、未だ人の耳に新たなる所であつて、未だ生存して居る人も色々あるが、少くとも此等の人々の決心元氣丈を以ても青年の好模範とするに足ると思ふ。而かも今後十年も立ち、是等の人々は悉く凋落し、其の當時の事蹟なども次第に人の記憶に遠かり、墮落、萎靡の風

潮は今日の勢を以て進んだならば、我國の士道元氣は全く跡を絶つと云ふ有様に到達すべく、思ふて茲に至れば實に踈然として懼れざるを得ない次第である。乃ち今に於て教育の改良を圖り志氣挽回の策を講ずるのは、最大急務と云はねばならぬ。杉浦君も健康も回復した事であるし、更らに學校改革の事に力め、國家大本の基礎を固むる教育方法を施して貰い度いと思ふ。就中今日一般の中學校の如く、徒らに文部の規則を守るに汲々として、唯だ其の框に入れる事のみ考へる事などは全然撤廢して、活氣ある、天真爛漫な真正純潔なる青年を養成する學校を建設されん事を切望して止まぬのである。

何にしても我國刻下の最大急務は、人心鼓舞、士道勃興の在つて、今日の惡弊墮風を一掃しなければならぬ。そこで先づ其の一助とも思ふて、義士切腹遺蹟たる僕の邸内に、其碑を建て、我國武士道の權化たる赤穂義志崇拜の念を永遠に傳へ度いと思ひ、杉浦君に撰文を書いて貰ひ、今度の義士討入の當夜を以て園遊會でも催し、同感の士と共に義士の忠烈を偲ばんと思つて居る。碑は現に石刻中で、碑文は左の通りである。

勿去碑

已酉端午之日余友芳暉園主人見過茅廬閑談移晷盛說士氣振作之方余與主人

同在東京開成學校之日切磋琢磨夜以繼日當時同人之意在以修學之餘鍊磨心膽發揮國風也歲月匆匆三十餘年之後猶說當時々風可知也主人居于麻布相傳長府侯之舊邸而赤穂義士十人賜死之蹟也夫赤穂義士傳記之振作士氣固不待論矣今主人家于茲居移氣其必有大可見者乎聊記所感以供主人之一粲云

明治四拾二年仲夏 天台道士識
 明治四十三年義士復仇之日
 芳暉園主人建之



忠臣蔵110番

- 講演・探訪会の講師派遣 (有料)
- テレビ・ラジオ番組制作協力 (有料)
- 忠臣蔵書籍出版
- 忠臣蔵図書の買い取り・販売
- 忠臣蔵図書の閲覧 (有料)
- 論文の募集
- 赤穂義士に関わる調査 (有料)
- 忠臣蔵出版物の校正 (有料)
- 各地義士会入会の紹介
- その他、赤穂義士に関わる全ての相談

TEL 048-973-3777 FAX 048-973-3790
 メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

見る・歩く・発見する

忠臣蔵史蹟事典

東京にある「忠臣蔵」史蹟の全てを網羅しています
 中央義士会 編著

定価 2,500円
 送料はサービス致します

購入の方は郵便局から

中央義士会
 00250-9-
 139100
 にお振り込み下さい
 (振込をもって申し込みとなります)

元中央義士会事務局長著
 「赤穂義士実纂」 斉藤茂
 定価一六〇〇円を一三〇〇円で販売
 先ずお電話を〇八〇一八九〇八一六三三

特別企画

「徳川昭武（水戸藩第十一代

藩主）邸見学会報告

理事 進藤 務

六月三十日、中島理事長の声かけによる、特別企画「徳川昭武邸見学」が開催されました。当日は、特別に富岡副理事長の知り合いで、松戸シテイガイトの松本賢治氏に庭内を案内していただき、徳川家のことが、詳細にわかりました。徳川昭武は十五代将軍徳川慶喜の実弟で水戸藩十一代藩主、その邸は昭和二十六年に松戸市に寄贈され戸定歴史館として一般公開されています。梅雨時期ではありませんが、幸いお天気に恵まれ総勢十名ほどが松戸駅に集合、なだらかな傾斜の坂道をゆつくり十分ほど歩いて到着しました。

敷地内には徳川昭武が住んだ戸定邸、徳川慶喜や昭武の遺品などが展示してある歴史館お茶室などがあります。小高い丘の上に建てられた邸の庭園を正面に眺めながら座敷で寛ぐと眼下に江戸川、右手遠くには富士山を望むことができしばし優雅な大名気分。欄間に家紋の葵があり柱には杉の柂目がふんだんに使われています。歴史館には一八六七年昭武が

慶喜の名代としてパリ万国博覧会に派遣された際のゆかりの品々や隠居後に趣味とした写真や陶芸の品々が展示されていて当時徳川幕府が外国に日本をアピールしようとしたことや明治維新後の暮らしぶりが窺い知れます。帰りがけの売店では「将軍コーヒー」を購入、徳川慶喜などが好んだフランス仕様のコーヒーを思いながら帰路につきました。

当日は、何より徳川家家紋の元になった生の葵の葉を見ることができたのが、思い出に残りました。

（写真 中島理事長）



戸定邸の庭先



参加者一同



庭先で歓談

百年以上、誰も参拝に来なかった

三次浅野家のお姫様のお墓

理事長 中島康夫

平成三十年十一月九日(金)、十二月八日に三次市での私の講演に係わる打合せの為、態々上京した(株)暮らしサポートみよしの社長花岡吉成氏を、都内の瑠泉院関係史蹟にご案内した。

この日は、三次に係わる瑠泉院にまつわる史蹟を見学したいとお聞きしていたので、富岡副理事長と私とで、三ヶ所の史蹟を案内した。

一番目が、三次浅野家三代当主浅野長澄(ながずみ)が奉行として石積みした、浜離宮(浜御殿)の玄関門。写真で分かる通り、城造りと同様の石積みである。

元禄事件も終わった、宝永四年十二月の事である。これだけの仕事(課役)をして、頂いたのが時服十着である。

二番目は、表題にも示した通りの、青山霊園に眠る三次三姫のお墓である。右から、三次長澄室(永昌院殿蓮光妙山日輝大姉)、真ん中が、長照の娘、万代姫(覚幼院)。左が長照室(妙園院真月清円大姉)のお墓である。長照室のお墓に到っては、高さが三メートル程あるのに驚きである。この三基の墓の存在は、霊園側も知らず、原簿にすら載っていないかったのである。序でといつては呵られるが、我が会初代会長の福本日南先生のお墓にも合掌したのは当然。



浜離宮にて 花岡氏(左)と富岡副理事長(右)

三番目のお参りは、西巢鴨の妙行寺である。このお寺には、昭和二十八年六月に中央義士会が建立した瑠泉院の供養塔がある。(写真左側がその供養塔)。何よりすごいのは、中央に建つ浅野長直室(高光院殿)の宝篋印塔である。三メートル有る高さである。そして、右側にある小さめの墓が、浅野大学室(蓮光院殿)の墓である。という事で、瑠泉院関係の墓参りの一日を過ぎました。

合掌



妙行寺 瑠泉院供養塔(左) 浅野長直室宝篋印塔(中) 浅野大学室墓(右)



青山霊園
三次長澄室(右) 長照娘(中) 長照室(左)

十字架の塔と浅野内匠頭上屋敷跡地

理事 進藤務

昭和五十三年に築地の聖路加に就職して四十年以上になる。

現在聖路加国際大学及び聖路加国際病院があるところは、播州赤穂藩浅野内匠頭上屋敷跡地である。敷地面積8974坪、建坪やや同じという面積は現代人の感覚からするととても膨大な数字で驚く。築地駅側には暁橋があり、当時上屋敷の正門前には築地川が流れ江戸が掘割の都市で船に乗って江戸城まで行けたということにも納得する。

兵庫県竜野市図書館には、上屋敷の図面が保管されていて、それには敷地内に築山や池があつて屋敷内の部屋の配置なども知ることができる。元禄十四年三月十四日の刃傷事件の際に、原惣右衛門の指揮の下、江戸城から勅使饗応で使用した物品を船で撤収搬送したことをイメージしたり、この場所に大石内蔵助や堀部安兵衛などがいたことを想像するだけでも忠臣蔵のロマンが掻き立てられる。現在の邸跡地には十字架の塔が聳えキリスト教のミッションをシンボライズしている。旧館七階には平成四年に新病院が竣工するまでカフェテリアがあり、入院患者や見舞客の憩いの場であった。カフェテリア中央の螺旋階段を昇っていくと、上の方には部屋があつてなんとバストイレの跡まである。戦前はチャレン(病院や学校付きの司祭)がそこに居住しており、戦後進駐軍に接收されてからは、高い場所にあつて見晴らしがよいためか司令官の事務所がおかれていた。

また、浅野内匠頭上屋敷跡の石碑のそばには中央区教育委員会の説明書きがある。時々行きかう人が足を止めて説明書きに見入る姿も見かけるが、忠臣蔵がNHKの大河ドラマに取り上げられて以降久しい。

忠臣蔵には君臣の忠義などだけではなく、人として守るべき徳目など学ぶべきものがたくさんある。しかし、自分の周囲の友人知人などに忠臣蔵や赤穂義士の話をして興味関心を持つ人は少なく大変残念に思う昨今の風潮である。

さ滋川鴻 い賀崎巢谷 た県市市区 ま市	地 区	★新入 会 員 紹 介
——— 般般般般般	会 員 別	★(敬 称 略)
金近二福桑 子松村本原	芳 名	
明志真芽紀 ず梨美美 絵子		

省無ら員大
し理がを石
なでい使ら笑
さしるつ切い
いよよて腹話
うう運しを
で動た一
自すし聖席
らがて地
切`いを常
腹安る時
最部一開
中さと放
でんんす
もにちす
食頼んる
べんかよ
てでんう
反も一議

昼
あ
ん
ど
ん
よ
り

てせ測事の中
おて事`事央そ
りい項忠`義ろ
またの臣佐士そ
すだ事蔵藤会ろ
いをに條の
て四係右全
全十わ衛て
て代る門の
を`全紛事
話五て失`
し十のの元
て代こ事禄
おのと`事
こ二`資件
う名将料研
とを来讓究
思選の渡分
つば予の野

理
事
長
中
島
康
夫

いを番り静先
。出皆まか生
し様すでは宮
てよが運ご沢
おり`動自誠
り五長不身一
ま歩い足の先
すも百の著生
。六十よ作へ
一步年う物一
度ものなで言
目進歴こ今
をん史との
通ででを中
さい`書央
れる今か義
て著のれ士
下作代て会
さ本がおは、
一

中
島
康
夫

創立110年記念

第16回忠臣蔵博士試験問題

[受験資格について]

- ・受験料は無料ですが、受験資格は会員に限ります。

[解答票の配布について]

- ・第16回忠臣蔵博士試験の解答票は、勉強会などで配布致します。別途必要な方は本部（FAX 048-973-3790）までご連絡下さい。FAXでお送りいたします。または、メールで中央義士会のメール（chuogishikai@tokyo.email.ne.jp）までご連絡下さい。折り返しメールでお送りいたします。

[解答票の送付]

- ・解答票は本部まで（FAX 048-973-3790）FAXで送付下さい。

[解答に際しての注意事項]

- ・試験問題の解答を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・同じく、会員同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げたいのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題がたくさん出題されています。
- ・文章での解答については、解答者が理解しているかを判断基準にさせていただきます。
- ・文章での解答については、要領を得ない場合は失点とします。
- ・解答がないと思われる場合は「なし」とだけ記入して下さい。
- ・文章を求める答えで、別紙を添付しても構いません。
- ・**最終提出日は、平成31年10月末日です。**

平成30年12月

第1問	寺坂吉右衛門が、12月25日に京都の寺井玄溪の所へ着いたことを堀部文五郎は、どうして知ったのでしょうか。
第2問	元禄15年7月28日に、重阿弥で行われた会議をどうして「円山会議」というのでしょうか。
第3問	元赤穂浅野家の家士で、現在、公の許可を申請しないとお墓の参拝ができない方がおります。どなたでしょうか。
第4問	平成元年に、寺坂離脱論争が始まった時に、双方が見落としていた要点が2点あります。何と何でしょうか。
第5問	大工軽部五兵衛の専門とする職種は何を得意としている家でしょうか。

第6問	将軍綱吉が、「討入りの朝、見たとされる」討入り口上書は、誰の口上書でしょうか。
第7問	討入りの朝、江戸城の中に柳沢吉保の姿が見えませんが、どのように推察しますか。
第8問	現在、寺坂吉右衛門の直系の子孫は存在しませんが、幕末も乗り越えて近年まで続き絶家しましたが、どこの土地で絶家したのでしょうか。
第9問	寺坂吉右衛門の子孫は、幕末の混乱期の一時期未来を求めて、ある土地にいました。どこでしょうか。
第10問	「元禄事件」本を何冊か出版されているある大学の先生が、最近「武士道」の本を出版しました。この現象をどのように思われますか。
第11問	大高源五の「二つ竹」は何部作られたのでしょうか。
第12問	義士達が裏門から退出した際、甚三郎が配ったみかんは、どこから仕入れたのでしょうか。
第13問	12問のみかんは、大分あったようで、甚三郎がみかん売りに間違われた事を示している史料名を挙げて下さい。
第14問	花岳寺に「梅堂」という僧がいた時期がありましたでしょうか。 ① 本当にいた ② 歴代通じていなかった
第15問	歴史にはあまり語られていませんが、元禄期に柳沢吉保と水戸光圀の間には激しい内面闘争があったでしょうか。 ① 本当にあった ② 何も無かった
第16問	いわゆる「3人あぐり」といわれておりますが、一人は浅野内匠頭の奥方、一人は吉良上野介の娘、あと一人はどなたでしょうか。
第17問	大石内蔵助の腰掛石は、全国にたくさんありますが、一番大きい石は、どこの石でしょうか。
第18問	平成7年に、加西市より「赤穂実記」なる古文書を解説した冊子が発刊されましたが、内容的にどのくらい信憑性があると思いますか。

第19問	信憑性も確かめず、印刷物にして発刊する行為をどのように思いますか。
第20問	堀部安兵衛の生誕の地が、会津城下とする一説があり、城下町には両親の墓も存在するそうです。この説の元は何でしょうか。
第21問	全国に「赤穂義士」の顕彰碑や石碑がたくさんあります。内容を考えた時に、どのくらい学術的に信用があるものでしょうか。
第22問	大野九郎兵衛が一代家老でない証拠は何でしょうか。
第23問	一級史料でも、討入り前日、大石内蔵助が瑤泉院を訪ねたと記録している史料もありますが、その史料を一点挙げて下さい。関係者及び身内の書き残した史料です。
第24問	大石内蔵助と羽倉斎が知り合いだと、断定して筆を進めている研究者が多いのですが、どうしてこの様な間違いが起こったのでしょうか。
第25問	大石内蔵助の「預置候金銀受払帳」の冒頭に、金額の下に(赤穂)という字が書かれています。この赤穂の字を深読みして下さい。
第26問	「江赤家秘録」について、知っているだけのことを述べて下さい。大石家に伝わただけでは解答になりません。
第27問	甚三郎が運んだ16品目の内に、「11月29日付の手紙」が含まれているのに、なぜ11月29日に運んだことになっているのでしょうか。
第28問	一般の書店で販売している本では、真実の元禄事件は学べません。どうしてでしょうか。
第29問	一人の人間が、古代から現代までエッセーを述べて、この様な著者を「すごい」と思いますか。「薄い」と思いますか。
第30問	元禄事件の「研究人口」はどうしたら増えるでしょうか。

注意：・文章での解答が多いので、月一勉強会、水曜ゼミなどでなるべく解説をして参ります。勉強会の出席を第一と考えて頑張って下さい。

- ・解答が的確でない場合、△印が付く場合がございます。△が2つで1点減点となります。
- ・問題そのものについてのご質問は幾つでも受け付けますので、何度でも聞いて下さい。

堀部安兵衛武庸生誕地 越後新発田
 武庸会 嶋谷 次郎 八
 新潟県新発田市御幸町一のの一

中央義士会
 副理事長 富岡 克
 東京都中央区在住

堀内伝右衛門ご子孫堀内研一様
 八月四日満百二歳をもってご浄土へとご往生なさいました生前のご恩に感謝し心よりご冥福をお祈りいたします
 中央義士会 山鹿支部 平成堀内組

日蓮宗
 法耀山 高光 寺
 赤穂市加里屋一八六一

中央義士会
 理事 三輪 三郎
 川崎市麻生区在住

中央義士会
 常務理事 荻原 栄
 中央義士会のホームページは <http://www.chushingura.net/> です。又は、中央義士会まで検索して下さい。

中央義士会
 理事 進 藤 務
 東京都板橋区在住

中央義士会
 理事 金子 堅一
 東京都荒川区在住

御礼
 同じく入院・退院を繰り返しておりました際、病院へお見舞いに来ていただいた方々、役員の呼びかけに協力下さいました方々へ、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。
 理事長 中島康夫 合掌

御礼
 平成二十九年七月から始まりました中島の生死を彷彿う疾病の際、特別な援助・協力をして下さいました理事吉田泰仁様に心より厚く御礼申し上げます。お陰様で全快いたしました。
 理事長 中島康夫

お知らせ
 先般、中央義士会で発行しました「佐藤條右衛門覚書」の内に、誤りがあると会員より指摘を受けましたので、調べた上で、改めて修正をご報告いたします。
 理事長 中島康夫

株式会社 メディカルオフィスベラ
 代表取締役 武 類 俊 哉
 取締役所長 武 類 ますみ
 東京都北区在住

平成30年 中央義士会 業務報告

担当 三輪三郎

年月日	項目	備考
H30.1.28	第22回忠臣蔵愛好会 赤穂義士引き揚げコースを歩く	参加者 52名
2.11	第93回月一勉強会「大石内蔵助の本心について」	新橋 荻原常務理事
3.11	浅野内匠頭三百十八回忌 浅野内匠頭追憶の集い	泉岳寺
4.1	旧細川邸開場案内 高輪地区六町会櫻まつり	中島理事長
4.8	第94回月一勉強会 ①検定試験解説②寺坂吉右衛門の生涯	新橋 中島理事長
4.29	第23回忠臣蔵愛好会功運寺(吉良上野介の墓)ほか5寺参詣	中島理事長 参加者25名
5.11	「赤穂義士足洗いの井戸再建」打合せ 於日本消防会館	中島理事長
5.13	第95回月一勉強会「大高源五について」	新橋 中島理事長
5.14	雑司ヶ谷墓地調査 浅野内匠頭母堂波知姫の件	中島理事長
6.2	①遺髪塔周辺整備 ②「堀内伝右衛門」像製作 日輪寺	平成堀内組
6.3	平成30年度理事会	新橋
6.15	泉岳寺浅野家墓石調査	富岡副理事長・荻原常務理事
6.17	第96回月一勉強会「貝賀弥左衛門について」	新橋 中島理事長
6.30	特別企画「徳川昭武邸見学」松戸	中島理事長 参加者15名
7.8	第97回月一勉強会「大石内蔵助三男 大三郎の運命について」	新橋 中島理事長
8.6	第98回月一勉強会「細川家にある赤穂義士古文書」	新橋 中島理事長
9.9	第99回 月一勉強会 「岡嶋八十右衛門について」	新橋 中島理事長
9.29,10.27	「忠臣蔵の史跡発見」フレンドリートラベル	中島理事長
10.7	第100回 月一勉強会「遙泉院の実家と遙泉院の本心」	新橋 中島理事長
11.2	サントリーCM 忠臣蔵放映 制作協力	中島理事長
11.11	第101回 月一勉強会「真壁・真岡・笠間時代の浅野家」	新橋 中島理事長
11.30	会報発行(第70号中央義士会、第35号全義連)	中島理事長
11.30	年譜忠臣蔵発刊	中島理事長
12.8	瑤泉院阿久利生誕350年記念講演「忠臣蔵と三次」	三次市 中島理事長
12.8-9	両国元禄市参加	荻原常務理事他5名
12.14	討入り 満三百十六年 赤穂義士追憶の集い	泉岳寺

編集後記

大石内蔵助ら十七名の義士たちが切腹した旧細川邸(聖地)を一般に開放すると画策している連中がおります。

人が切腹していった場所を公園と
思っているのでしょうか。キチンと
教育を受けてない頭の悪い連中の考
えそうなことです。このような連中
は、聖地の合い鍵を作り、いろんな
稚拙な手段で、港区に働きかけてお
ります。

大石らの魂を土足で踏みじろう
としております。我々としては、裁
判をしても守らなければなりません。
忠臣蔵に関わる皆様はどのようにお
考えになるでしょうか。

ご意見をお聞かせ下さい。

編集者 中島康夫(企画・編集・検証)
荻原 栄(編集) 上森茂(編集)
三輪三郎(校正)
エム・シヨット (印刷)